

令和4年度学校評価【3者評価比較(生徒・保護者・教職員)】

令和5年4月6日

※ 4: と思う(よい) 3: だいたいと思う(概ねよい) 2: あまり思わない(不十分である) 1: そうは思わない(改善を要する) ()は教職員
 ※ 評価結果について 4+3が80%以上をA、70%以上をB、45%以上をC、45%未満をDとする。
 ※ 令和4年(2022年)12月実施

項目	対象者	設 問 【学校全般について】	R 4		R 3	
			満足度	評価	満足度	評価
			4+3 %		4+3 %	
1	生徒	全学年	72	B	79	B
		(普通科)	69	C	76	B
		(食物科)	85	A	86	A
		1学年	80	A	82	A
		(1学年普)	77	B	82	A
		(1学年食)	95	A	82	A
		2学年	66	C	69	C
		(2学年普)	62	C	64	C
		(2学年食)	83	A	81	A
		3学年	74	B	89	A
2	生徒	(3学年普)	71	B	86	A
		(3学年食)	82	A	95	A
		保護者	92	A	96	A
		教職員	93	A	92	A
		全学年	81	A	87	A
		(普通科)	78	B	88	A
		(食物科)	91	A	87	A
		1学年	84	A	90	A
		(1学年普)	82	A	91	A
		(1学年食)	91	A	85	A
3	生徒	2学年	78	B	81	B
		(2学年普)	74	B	79	B
		(2学年食)	97	A	84	A
		3学年	82	A	88	A
		(3学年普)	81	A	86	A
		(3学年食)	85	A	92	A
		校舎や設備に満足している	68	C	67	C
		保護者	86	A	89	A
		教職員	86	A	91	A
		4	生徒	全学年	80	B
(普通科)	78			B	82	A
(食物科)	83			A	75	B
1学年	86			A	88	A
(1学年普)	87			A	89	A
(1学年食)	86			A	88	A
2学年	74			B	73	B
(2学年普)	72			B	73	B
(2学年食)	86			A	72	B
3学年	78			B	76	B
5	生徒	(3学年普)	78	B	83	A
		(3学年食)	79	B	66	C
		保護者	72	B	76	B
		教職員	85	A	82	A
		シラバス・学習成績等、必要な情報を十分に生徒・保護者へ提供している	75	B	59	C
		懇談会や懇親会を含めて保護者との協力関係構築に努めている	75	B	59	C

4	生徒	先生たちは、熱心に教育活動に取り組んでいると思う	全学年	86	A	92	A
			(普通科)	84	A	92	A
			(食物科)	95	A	91	A
			1学年	91	A	95	A
			(1学年普)	89	A	96	A
			(1学年食)	100	A	91	A
			2学年	82	A	90	A
			(2学年普)	79	B	89	A
			(2学年食)	94	A	72	B
			3学年	87	A	88	A
5	生徒	コース／プログラム制導入のカリキュラムに満足している	(3学年普)	85	A	89	A
			(3学年食)	91	A	87	A
	保護者	先生たちは、熱心に部活動・学校行事等に取り組んでいると思う		87	A	90	A
				93	A	83	A
	教職員	学校行事への生徒の意識向上を図るとともに、部活動や学校行事等へ積極的に参加している					
	生徒	コース／プログラム制導入のカリキュラムに満足している	全学年	81	A	85	A
			(普通科)	76	B	87	A
			(食物科)	97	A	82	A
			1学年	93	A	93	A
			(1学年普)	93	A	94	A
			(1学年食)	100	A	91	A
			2学年	73	B	77	B
			(2学年普)	68	C	75	B
			(2学年食)	97	A	83	A
			3学年	76	B	82	A
	生徒	コース／プログラム制導入のカリキュラムに満足している	(3学年普)	69	C	87	A
			(3学年食)	94	A	74	B
	保護者	本校の教育指導には満足している		84	A	88	A
				92	A	82	A
	教職員	定期試験終了後の授業満足度調査によって授業改善を進めている					
	教職員	生徒にとって適切なカリキュラムを組んでいる					
	教職員	生徒にとって適切なカリキュラムを組んでいる					

項目	対象者	設 問 【学習について】	R 4		R 3	
			満足度	評価	満足度	評価
			4+3 %		4+3 %	
1	生徒	全学年	87	A	87	A
		(普通科)	86	A	87	A
		(食物科)	91	A	87	A
	保護者	子供は、日常的に家庭学習を確保している様子がうかがえる	53	C	52	C
教職員	生徒が自学自習を自らできるよう、授業等を工夫している	82	A	82	A	
	スコラ手帳の活用を図っている	18	D	48	C	
2	生徒	全学年	87	A	91	A
		(普通科)	85	A	92	A
		(食物科)	95	A	91	A
		1学年	88	A	95	A
		2学年	83	A	87	A
	3学年	92	A	90	A	
	保護者	成績等学習状況に関する情報は得ることができる	84	A	86	A
	教職員	シラバスの内容充実を図り、それに合わせた授業実践を行なっている	86	A	86	A
シラバス・学習成績等、必要な情報を十分に生徒・保護者へ提供している		85	A	82	A	
3	生徒	全学年	78	B	88	A
		(普通科)	76	B	89	A
		(食物科)	89	A	86	A
		1学年	81	A	94	A
		2学年	77	B	83	A
	3学年	76	B	84	A	
	保護者	本校は、学力向上や資格取得に取り組んでいる学校であると思う	80	B	84	A
	教職員	定期試験前後の成績不良・不振者への指導を充実させ、追試合格者数の向上を図っている	93	A	82	A
実力テストや模試において十分な事前・事後指導を行っている		57	C	54	C	

4	生徒	学習面での努力や成果を適切に評価している	全学年	86	A	90	A
			(普通科)	84	A	91	A
			(食物科)	91	A	86	A
			1学年	88	A	94	A
			(1学年普)	87	A	94	A
			(1学年食)	100	A	88	A
			2学年	81	A	84	A
			(2学年普)	79	B	85	A
			(2学年食)	88	A	84	A
			3学年	88	A	90	A
			(3学年普)	88	A	93	B
			(3学年食)	88	A	87	A
5	保護者	子供の学習面での努力や成果が、適切に評価されている		93	A	90	A
	教職員	生徒の学習面での努力や成果を適切に評価している		96	A	100	A
	生徒	学習指導体制(対面授業・Zoom授業・講習等)には満足している	全学年	76	B	88	A
			(普通科)	75	B	89	A
			(食物科)	78	B	85	A
			1学年	77	B	92	A
			(1学年普)	79	B	92	A
			(1学年食)	72	B	91	A
			2学年	71	B	82	A
			(2学年普)	69	C	82	A
			(2学年食)	79	B	83	A
			3学年	83	A	89	A
			(3学年普)	83	A	94	A
			(3学年食)	82	A	81	A
	保護者	本校の学習指導体制(対面授業・Zoom授業・講習等)には満足している		86	A	89	A
	教職員	授業では、生徒の授業態度について、その都度、適切に指導している		93	A	100	A
		授業や講習等における準備を十分に行っている		79	B	68	B
		授業では教進部の授業目標を理解し、実践している		79	B	82	A

項目	対象者	設 問 【進路指導について】	R 4		R 3		
			満足度	評価	満足度	評価	
			4+3 %		4+3 %		
1	生徒	生徒の進路実現のためにドリカムルームの設置など、努力している	全学年	79	B	82	A
			(普通科)	76	B	81	A
			(食物科)	91	A	83	A
	保護者	本校は生徒の進路実現のためにドリカムルームの設置など、努力している	84	A	89	A	
教職員	教科、学年、部活動、講習等を通して、進路の自己実現へ向けての意識付けを行なっている	96	A	91	A		
2	生徒	進路について必要な情報は得ることができている	全学年	81	A	81	A
			(普通科)	78	B	81	A
			(食物科)	92	A	79	B
	保護者	進路について必要な情報は得ることができている	68	C	72	B	
教職員	生徒・保護者へ進路に関する情報を適切に提供し、また教員間での情報共有に努めている	68	C	75	B		
3	生徒	進路に関する面談がよく行なわれている	全学年	76	B	63	C
			(普通科)	74	B	66	C
			(食物科)	80	B	56	C
	保護者	学校・担任に進路に関する相談はしやすいと思う	80	B	81	A	
教職員	生徒からの面接指導を含む進路に関する相談や作文指導、小論文指導等を計画的に実施している	93	A	86	A		

項目	対象者	設 問 【生徒指導について】	R 4		R 3		
			満足度	評価	満足度	評価	
			4+3 %		4+3 %		
1	生徒	時間を守り、欠席や遅刻をしていない	全学年	87	A	88	A
	保護者	子供は時間を守り、高校生らしい規律ある生活を送っている		90	A	86	A
	教職員	生徒が高校生らしい規律ある生活を送れるように指導している		100	A	100	A
2	生徒	本校は、校則(服装・交通安全等)を守り指導をしている	全学年	91	A	92	A
	保護者	本校は、身だしなみ(頭髪・服装)、挨拶、礼儀、安全教育が行われている		95	A	93	A
	教職員	頭髪・服装・身だしなみ、挨拶・言葉遣い、礼儀、マナー等について、その場で指導している		93	A	100	A
3	生徒	本校は、挨拶や礼儀作法等の指導に真剣に取り組んでいる	全学年	86	A	93	A
	保護者	服装・頭髪等、本校の指導方針には理解・納得できる		82	A	88	A
	教職員	本校の生活規律についての指導を生徒・保護者に理解させている		96	A	92	A

令和4年度学校評価【学校自己評価（教職員）】

令和5年4月6日

全教職員	28名
回答人数	28名
回答率	100.0%

※ 4：よい 3：概ねよい 2：不十分である 1：改善を要する

※ 4+3が80%以上をA、70%以上をB、45%以上をC、45%未満をDとする。

領域	対象		4	3	2	1	計	4	3	2	1	満足度 4+3	R4	R3
教育活動に係る評価	学習指導	1 生徒が自学自習を自らできるよう、授業等を工夫している	3	20	5	0	28	11%	71%	18%	0%	82%	A	A
		2 シラバスの内容充実を図り、それに合わせた授業実践を行なっている	2	22	4	0	28	7%	79%	14%	0%	86%	A	A
		3 シラバス・学習成績等、必要な情報を十分に生徒・保護者へ提供している	6	18	4	0	28	21%	64%	14%	0%	86%	A	A
		4 定期試験前後の成績不良・不振者への指導を充実させ、追試合格者数の向上を図っている	2	24	2	0	28	7%	86%	7%	0%	93%	A	A
		5 定期試験終了後の授業満足調査によって授業改善を進めている	6	20	2	0	28	21%	71%	7%	0%	93%	A	A
		6 教科内連携を充実して指導の均等化を図り、評価判定等の充実を目指している	4	21	3	0	28	14%	75%	11%	0%	89%	A	A
		7 生徒の学習面での努力や成果を適切に評価している	10	17	1	0	28	36%	61%	4%	0%	96%	A	A
		8 授業や講習等における準備を十分に行なっている	4	18	6	0	28	14%	64%	21%	0%	79%	B	C
		9 ノーチャイム制を意識し、授業の開始・終了時間をしっかり守って授業を行なっている	9	13	6	0	28	32%	46%	21%	0%	79%	B	B
		10 授業では、生徒の授業態度についてその都度、適切に指導している	10	16	2	0	28	36%	57%	7%	0%	93%	A	A
		11 授業では教進部の授業目標を理解し、実践している	5	17	6	0	28	18%	61%	21%	0%	79%	B	A
		12 生徒にとって適切なカリキュラムを組んでいる	4	21	3	0	28	14%	75%	11%	0%	89%	A	A
		13 スコラ手帳の活用を図っている	0	5	17	6	28	0%	18%	61%	21%	18%	D	C
		14 iPadや電子黒板、BLEND、LearningBox等のICT機器を活用している	13	13	2	0	28	46%	46%	7%	0%	93%	A	B
	進路指導	15 教科、学年、部活動、講習等を通して、進路の自己実現へ向けての意識付けを行なっている	7	20	1	0	28	25%	71%	4%	0%	96%	A	A
		16 実力テストや模試において十分な事前・事後指導を行なっている	2	14	11	1	28	7%	50%	39%	4%	57%	C	C
		17 生徒・保護者へ進路に関する情報を適切に提供し、また教員間での情報共有に努めている	2	17	9	0	28	7%	61%	32%	0%	68%	C	B
		18 生徒からの面接指導を含む進路に関する相談や作文指導、小論文指導等を計画的に実施している	9	17	2	0	28	32%	61%	7%	0%	93%	A	A
	生徒指導	19 生徒が高校生らしい規律ある生活を送られるように指導している	6	22	0	0	28	21%	79%	0%	0%	100%	A	A
		20 頭髪・服装・身だしなみ、挨拶、言葉遣い、礼儀、マナー等については、その場で指導している	7	19	2	0	28	25%	68%	7%	0%	93%	A	A
		21 担任や教科担任として、担当生徒一人一人を把握し、学年や生徒指導部との連携を密にして指導を進めている	5	22	1	0	28	18%	79%	4%	0%	96%	A	A
		22 本校の生活規律についての指導を生徒や保護者へ理解させている	3	24	1	0	28	11%	86%	4%	0%	96%	A	A
	特別活動	23 学校行事への生徒の意識向上を図るとともに、部活動や学校行事等へ積極的に参加している	12	14	2	0	28	43%	50%	7%	0%	93%	A	A
		24 生徒会活動や委員会活動、部活動等で、生徒自らが計画を立案し、課題への迅速な対応を図るように指導している	2	21	5	0	28	7%	75%	18%	0%	82%	A	A
	教育戦略	25 挨拶・礼儀指導を基本とする学力向上教育や特色等を様々な機会を通じて中学校等へアピールしている	2	21	4	1	28	7%	75%	14%	4%	82%	A	B
		26 より魅力ある授業づくりを意識して授業改善に取り組んでいる	4	20	4	0	28	14%	71%	14%	0%	86%	A	A
		27 学校広報の一環としてのホームページ、学級だよりなど、さまざまな発信をしている	1	11	14	2	28	4%	39%	50%	7%	43%	D	C
学校運営	連携される学校づくり	28 生徒が本校に入学してよかったと思う学校づくりに努めている	3	23	2	0	28	11%	82%	7%	0%	93%	A	A
		29 生徒の高校生活が充実するように一人一人に目を向け指導している	8	16	4	0	28	29%	57%	14%	0%	86%	A	A
		30 担任として、担任生徒全員との個別面談を実施している(2回以上)	9	14	4	1	28	32%	50%	14%	4%	82%	A	A
		31 懇談会や懇親会を含めて保護者との協力関係構築に努めている	6	15	5	2	28	21%	54%	18%	7%	75%	B	C
		32 生徒・保護者に必要な情報を積極的かつ十分に提供している(学級・分掌・部活動等)	3	18	7	0	28	11%	64%	25%	0%	75%	B	B
	組織運営	33 今年度の学校目標や分掌、学年等での重点目標等を理解して実践している	1	22	4	1	28	4%	79%	14%	4%	82%	A	A
		34 iPad、電子黒板等、ICT機器の活用推進がなされている	12	10	6	0	28	43%	36%	21%	0%	79%	B	B
	資質向上	35 各種研修への参加や校内研修等で研修を深める努力を行なっている	4	11	13	0	28	14%	39%	46%	0%	54%	C	C
		36 校内で研修成果の報告や活用に取り組んでいる	4	10	13	1	28	14%	36%	46%	4%	50%	C	C

令和４年度 教職員自由記載

1	若い先生方はじめ、前向きに取り組んでおられる方が多いと思います。しかし、一人当たり抱えている仕事量も非常に多いと思われ、それだけにミスを防げるような心の余裕を少しでも持てたらと思います。そのためにも、新たに取り組むべきこと、削ってもいいことを検証することも必要かと思います。
2	慣例に習った実態が多く見られる。授業、評価、校則などすべてにおいて精査して、「今までそれでやってきたから」や「それが附属高校の特色である」ということを言い訳にせず、時代に取り残されている面を改めていかなければならないと感じます。また、「禁止することを指導する」と誤解することなく、禁止しなくても適切な行動ができるように指導を粘り強く重ねていきたいと思います。
3	今年度はHR業務に関してはスムーズに行えたが、部活動で結果を残すことができず、生徒募集で中学生にアピールすることができなかった。責任を感じています。
4	学校ホームページの情報更新（特にブログ）の更新頻度が少なすぎます。外部の方々にとって、学校の情報更新頻度というのは一つの評価基準になります。更新頻度が少なすぎるということは、学校についての情報がこまめに入らず、学校に対する不信感やマイナスな評価に繋がってかことにもなると考えます。より一層、こまめな情報発信が必要ではないかと考えます。また、多くの学校でSNSを活用した情報発信が行われているのにも関わらず、本校で活用されていないのは、「生徒数を確保する」という目標に矛盾していると考えます。
5	男だから女子生徒の化粧に気がつかなかったということでもいいのでしょうか。教員の価値観の違いによって、指導される生徒とそうでない生徒がいるのは現実です。一つ例をあげると、修学旅行の際に、男子生徒の整髪料について自分のクラスの生徒に注意し、直させました。他のクラスの先生方もその現場を見ていましたが、他クラスの整髪料でベタベタな生徒に何も注意していません。日頃から何も注意していないので、そのようになったと思います。現に、明確に校則に整髪料がダメという記載はありません。私の指導が行き過ぎていたのでしょうか。化粧やスカートの長さ、男だから、女だから指導できない、気付けぬ教員が多数いるのであれば、そのような曖昧な校則・ルールをなくすべきだと思います。教員の中での共通理解を図るべきだと思います。
6	「お前!」「馬鹿やろー!」という発言や理不尽に怒鳴りつけることなど、教員としての品格に欠ける場合があります。教育の目的は「人格の完成」であり、我々教員も「人格者」でなければならないと考えます。また、生徒指導の目的が「一人一人の児童・生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図る」と生徒指導提要にも書かれており、今一度、生徒一人一人に対して真摯に向き合っていくことが大切です。
7	次年度は、①生徒の国語力向上、②HR経営、③部活動指導に注力し、「本校に来てよかった」と思ってもらえる指導を継続していきます。また、生徒募集のための広報活動にもいろいろと案を出していきたいと考えています。
8	クラス担任ではないので、生徒・保護者との関りは多くはありませんが、学年男子サッカー部を中心にアスリートプログラム、レバンガ等の生徒とはできるだけコンタクトを取ることで生徒との距離を測るようにしています。
9	授業の始業・終業の時間を守らない方がいます。始業の時間になってから教室に向かう教員もいます。何のためにノーチャイム制度を導入してるのかを今一度意識すると共に、始業・終業の時間が守られないということは生徒一人一人の学習の機会や権利を奪うことにつながるということを強く意識してほしいと思います。
10	学校全体として検討や改善を要する点について、意見交換や検討する場や機会が少ないため、なかなか改善されない現状があるように感じます。まずは年度末評価改善会議の在り方について、建設的な会議となるよう工夫が必要ではないかと考えます。食物科主任業務は他の分掌部長に匹敵する業務過多の状況であり、改善が必要だと感じます。
11	ドリカムルームの存在意義が生徒や保護者、我々教員間においても十分に周知されていないように感じます。我々の学習指導や教育活動との連携を今一度充実させ、教室や時間等を見直していく必要があるのではないかと考えます。
12	受験のアドバンテージやグローバルプログラム生徒が自身の英語技能を測り向上に努めていくという意味でも、英語系資格および検定受験の機会を充実させていくべきです。このことが、多様な進路選択や進学実績の向上に繋がると共に、「生きた学びを一人一人に」提供することにもつながっていくのではないかと考えます。

令和4年度学校評価【生徒アンケート 全学年】

令和5年4月6日

合計:素点		在籍	468	回答	451	回答率	96%	4	3	2	1	合計	平均
評 価 項 目								そう思う	だいたい そう思う	あまり思 わない	そうは思 わない		
学校全般について	1	北海道文教大学附属(明清)高等学校に入学してよかった						127	200	84	40	451	2.9
	2	雰囲気良く、楽しく学校生活を送っている						175	190	57	29	451	3.1
	3	学校の校舎や設備に満足している						111	180	88	54	433	2.8
	4	教育活動の内容や取組について十分伝えられている						129	228	69	25	451	3.0
	5	先生たちは、熱心に教育活動に取り組んでいると思う						167	222	44	18	451	3.2
	6	コース/プログラム制導入の授業カリキュラムに満足している						183	180	61	27	451	3.2
	7	先生たちは、スコラ手帳の活用について指導している						95	133	112	111	451	2.5
	8	ICT環境(BLEND、LeaningBox、電子黒板、iPadの貸与(1年))には満足している						185	186	48	32	451	3.2
学習について	1	宿題や課題は適切な量が出されている						186	206	38	21	451	3.2
	2	先生たちは、教材や教え方に様々な工夫をしている						173	221	43	14	451	3.2
	3	本校は、学力向上や資格取得に取り組んでいる						151	205	69	26	451	3.1
	4	学習面での努力や成果を適切に評価している						156	229	49	17	451	3.2
	5	学習指導体制(対面授業・Zoom授業、講習等)には満足している。						141	204	76	30	451	3.0
進路指導について	1	生徒の進路実現のためにドリカムルームの設置など、努力している						163	196	56	36	451	3.1
	2	進路について必要な情報は得ることができている						147	218	63	23	451	3.1
	3	進路に関する面談はよく行われている						131	211	80	29	451	3.0
生活指導について	1	時間を守り、欠席・遅刻をしていない						258	131	36	23	448	3.4
	2	本校は、校則(服装・交通安全等)を守る指導をしている						227	181	30	10	448	3.4
	3	本校は、挨拶や礼儀作法指導を真剣に取り組んでいる						204	179	46	19	448	3.3

各評価項目の評価結果は、4+3が80%以上をA、70%以上をB、45%以上をC、45%未満をDとする。

合計:%		在籍	468	回収	451	回収率	96%	4	3	2	1		
評 価 項 目								そう思う	だいたい そう思う	あまり思 わない	そうは思 わない	評価	
学校全般について	1	北海道文教大学附属(明清)高等学校に入学してよかった						28%	44%	19%	9%	B	
	2	雰囲気良く、楽しく学校生活を送っている						39%	42%	13%	6%	A	
	3	学校の校舎や設備に満足している						26%	42%	20%	12%	C	
	4	教育活動の内容や取組について十分伝えられている						29%	51%	15%	6%	B	
	5	先生たちは、熱心に教育活動に取り組んでいると思う						37%	49%	10%	4%	A	
	6	コース/プログラム制導入の授業カリキュラムに満足している						41%	40%	14%	6%	A	
	7	先生たちは、スコラ手帳の活用について指導している						21%	29%	25%	25%	C	
	8	ICT環境(BLEND、LeaningBox、電子黒板、iPadの貸与(1年))には満足している						41%	41%	11%	7%	A	
学習について	1	宿題や課題は適切な量が出されている						41%	46%	8%	5%	A	
	2	先生たちは、教材や教え方に様々な工夫をしている						38%	49%	10%	3%	A	
	3	本校は、学力向上や資格取得に取り組んでいる						33%	45%	15%	6%	B	
	4	学習面での努力や成果を適切に評価している						35%	51%	11%	4%	A	
	5	学習指導体制(対面授業・Zoom授業、講習等)には満足している。						31%	45%	17%	7%	B	
進路指導について	1	生徒の進路実現のためにドリカムルームの設置など、努力している						36%	43%	12%	8%	B	
	2	進路について必要な情報は得ることができている						33%	48%	14%	5%	A	
	3	進路に関する面談はよく行われている						29%	47%	18%	6%	B	
生活指導について	1	時間を守り、欠席・遅刻をしていない						58%	29%	8%	5%	A	
	2	本校は、校則(服装・交通安全等)を守る指導をしている						51%	40%	7%	2%	A	
	3	本校は、挨拶や礼儀作法指導を真剣に取り組んでいる						46%	40%	10%	4%	A	

令和4年度学校評価【保護者アンケート 全学年】

令和5年4月6日

合計:素点		在籍	468	回答	314	回答率	67%	4	3	2	1	合計	平均
評価項目								4 そう思う	3 だいたい そう思う	2 あまり 思わない	1 そうは 思わない		
学校全般について	1	子供が本校に入学してよかった。						161	130	19	4	314	3.4
	2	子供は本校の学校生活に満足していると思う。						110	160	34	9	313	3.2
	3	教育活動の内容(進路・行事等)や取り組み状況が保護者によく伝わっている。						52	172	75	13	312	2.8
	4	先生達は、熱心に部活動・学校行事等に取り組んでいると思う。						117	153	33	8	311	3.2
	5	本校の教育指導には満足している。						75	188	42	7	312	3.1
	6	本校の教育理念や指導方針が理解できている。						49	189	63	9	310	2.9
	7	保護者と教職員の協力関係がしっかり築けていると思う。						53	178	65	15	311	2.9
	8	BLENDIによる連絡・通知は重宝している						205	98	9	2	314	3.6
学習について	1	子供は、日常的に家庭学習を確保している様子がうかがえる。						42	125	115	30	312	2.6
	2	成績等学習状況に関する情報は得ることができている。						114	151	41	7	313	3.2
	3	本校は、学力向上や資格取得に取り組んでいる学校であると思う。						81	169	54	9	313	3.0
	4	子供の学習面での努力や成果が、適切に評価されている。						109	180	21	2	312	3.3
	5	本校の学習指導体制(対面授業・Zoom授業、講習等)には満足している。						85	184	39	5	313	3.1
進路指導について	1	本校は生徒の進路実現のためにドリカムルームの設置など努力している。						94	169	42	8	313	3.1
	2	進路について必要な情報は得ることができている。						39	171	95	7	312	2.8
	3	学校・担任に進路に関する相談はしやすい。						106	143	53	10	312	3.1
生活指導について	1	子供は時間を守り、高校生らしい規律ある生活を送っている。						116	166	24	6	312	3.3
	2	本校は、身だしなみ(頭髪・服装)、挨拶、礼儀、交通安全等の指導が行われている。						122	176	11	4	313	3.3
	3	服装・頭髪等、本校の指導方針には理解・納得できる。						110	148	44	11	313	3.1

令和5年（2023年）4月6日
北海道文教大学附属高等学校

学校関係者による評価結果について

1 令和4年度学校関係者評価委員会

(1) 日 時 令和5年3月17日(金) 16:00～17:00

(2) 場 所 3階会議室

(3) 出席者 ア 学校関係者

地域住民 中村 忠司 様
地域企業等 溝 弘 様
同窓会関係 阿部 順子 様
PTA関係 石上 一美 様
教育関係 前川 豊志 様（欠席）

イ 学校教職員

校 長 佐々木淑子
教 頭 吉田 聡
事 務 長 石丸 朝生
総務部長 浜本 裕
教進部長 渋谷 剛弘
指導部長 有野 靖弘
情報部長 岡部 洋輔

2 学校関係者評価から明らかになった改善課題等

- (1) 各領域・項目とも自己評価は概ね適切である。今年度の学校評価を見る限り、第2学年普通科の満足度が低い結果となっている。次年度は最上級学年として後輩に背中を見せる立場になる。進路実現に向けて具体的に動く学年でもあるので、一人一人の可能性を伸ばし、きめ細かい学習指導や行き届いた生徒指導、丁寧な生活指導を一段と深化させていくこと。
- (2) コロナ禍の影響を受け様々な学校行事が中止となっていたが、今年度は3年ぶりに学校祭が開催された。あらためて生徒たちの生き生きとした姿や喜ぶ姿を見るにつけ、学校における集団活動の重要性を感じた。今後も創意工夫を重ね、学校行事など特別活動の充実を図っていく必要がある。
- (3) 令和3年度に恵庭キャンパスに移転し、ICT環境を始めとする施設・設備が充実してきた。生徒たちの学習環境の向上とともに、学校の総合的なレベルが上がっている。これからも地域密着を忘れずにF高の教育活動を充実させていくことが大切である。地元の小学校・中学校を中心に、地域との連携を一層進めていくことが必要である。
- (4) ガーデンフェスタ北海道2022（恵庭市）における製菓料理研究部と地元料理店とのコラボメニュー開発や女子サッカー部のインターハイ出場などの報道記事を見てもわかる通り、部活動も頑張っている。これからも部活動指導を通して生徒たちの健やかな成長を促すとともに、地域行事等には積極的に協力するなど地域に根差した学校を目指すことが肝要である。恵庭市は人口もわずかとはいえ増加しているが高齢化が進んでいる中、若い人たちの活躍を期待する。

- (5) 北海道文教大学の附属高校という利点を生かし、北海道文教大学との連携を図るとともに北海道文教大学への進学者も増えることに期待する。本校から北海道文教大学へ進学する場合、入学金の免除などメリットも多いので、その点をしっかり本校生徒だけでなく中学生にもアピールしていくことが大切である。また、生徒募集の面からも国公立大学への進学指導の在り方も喫緊の課題である。
- (6) 恵庭市学校教護協会でも話題になるが、最近の小中高の子どもたちの課題は昔とはかなり変化している。理解に追いつかない状況である。SNSなど、保護者以上に子どもたちの方が進んでおり、怒り方も含め難しい時代になった。いじめ問題など子どもたち同士のコミュニケーション不足も感じている。SNSは文面でのやり取りだが、やはり対面でのコミュニケーションは必要である。なお、学校側の指導が行き過ぎて体罰にならないよう注意する。
- (7) 鶴岡トシ先生に茶道と華道をご教授いただいた。心が落ち着く場面の重要性は、今でも感じている。また、鶴岡トシ先生からは、学生時代に取れる免許・資格は全て取りなさい、挑戦しなさいと教えを受け、その後の人生に大きな影響を受けた。生徒たちも手に職を持ち、社会に貢献できる大人に成長できるよう、日ごろの教育活動の充実を一層図ることが必要である。
- (8) 小学生にバスケットボールを指導して40年を迎えるが、指導者不足である。学校現場も教員不足と聞くと、どの分野においても人材確保を下支えする仕組みを期待したい。
- (9) 先生方の働き方は大きな課題である。勤務体系の工夫や業務精選・ルーティン化などを進めるべきである。コロナ禍をはじめ、少人数指導、学校の役割（全日制、定時制、通信制）など教育の転換期を迎えている。こういった課題を意識しながら、校長を中心に一致団結し、魅力発信に努めていくことに期待している。